

Q 鶴ヶ島版暮らしの保健室について

山中 基充 議員



A 地域の健康ニーズに応じていく

- 質問一** 医療と介護、そして自治体の連携の現状について。
- 二** 地域包括ケアの取り組みは。
- 三** 鶴ヶ島版「暮らしの保健室」の取り組みの状況について。
- 四** 新しい休日夜間診療所での「暮らしの保健室」実施の見通しについて。
- 答弁一（市長）** 国の地域医療再生基金を活用し、在宅医療推進事業を一般社団法人坂戸鶴ヶ島医師会へ委託している。27年度は、多種連携のための情報共有システムの導入などに取り組む。
- 二** 27年4月からは、地域包括ケア推進担当を設置するなどし、医療、介護、予防、生活支援サービスが切れ目なく提供できる体制づくりに取り組む。
- 三** 公民館などでの事業に保健師



を派遣している。27年度は、市民センターと保健センターが連携し、健康相談や健康チェックなどを行い、市民の健康ニーズに応える。

四 包括的な医療介護連携拠点施設の機能の付随事業として考える。

◎その他の質問

- 一** 呉市に学ぶデータヘルスの取り組み
- 二** 公園のトイレの整備
- 三** 統一的な基準による地方公会計マニュアル

Q 介護保険料の値上げを抑えよ

高田 克彦 議員



A 基金の活用により抑制し、財政の安定的な運営に努める

質問一 基金を使って介護保険料の値上げを抑えよ。

答弁一（市長） 計画期間における介護給付費等を推計し、保険料や国、県等の法定負担割合に応じた負担額を算出した上で、第1号被保険者一人当たりの介護保険料の基準月額を4300円と設定した。算定の際には、介護保険給付費準備基金から2億5600万円を取り崩し、保険料の抑制に努めた。この準備基金は、介護給付費が見込みを上回る場合に、必要額を取り崩して充てるための基金である。給付費の支払いが滞る状況は避けなければならない、納付さ

- れた貴重な介護保険料の一部であるとの認識のもと、給付費1か月相当分を準備基金に用意し、介護保険財政の安定的な運営に努める。
- ◎その他の質問**
- 一** 国民健康保険会計の広域化の参加をやめよ
- 二** 東部保育所の廃園計画を撤回せよ
- 三** ウォーカーの交通安全対策に万全をつくせ
- 四** 公共施設のトイレの洋式化計画をつくれ
- 五** 住宅リフォーム制度の確立を
- 六** 市長のスキャンダラスな一部報道に釈明を



高齢者福祉課